

「埼玉の生協」は誰もが安心してくらせる地域社会づくりに取り組んでいます

～誰ひとり取り残さない社会を目指して～

県内14生協の生活協同組合が加盟する埼玉県生活協同組合連合会では「誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくり」に積極的に取り組んでいます。県内生協が地域の中でさまざまな団体と連携・協力して行っている居場所を紹介します。

「つながり」で継続していく地域の居場所

5年ほど前から継続的に地域における居場所づくりを行っている。その一つである「宿題応援隊」は、町内会からの依頼で始まった子どものための夏休みの居場所である。「地域の子どもを地域のみならず応援しよう」という目的のもとで立ち上げたもので、対象は地元の小中学生に限定している。会場確保や運営、受付、昼食づくりなどは町内会のメンバーが行い、地域の民生委員や児童委員、社会福祉協議会、さらには子ども、校長先生も参加されている。ポラン



星野 敦子さん

「宿題応援隊」は身近な地域の施設で、お互いよく知っている仲間が集い、大人が優しく見守る空間である。このような環境では、子どもたちの気持ちも解放されて、のびのびと参加することができ、学校では課題があるように見える子どもも、いそいそと楽しそうに活動しているのを見ることができた。「居場所づくり」として、まさに「環境づくり」である。素のままで受け入れてくれる環境。自分の「良さ」を認めてもらえる環境があれば、子どもでも大人でもそこを「自

分の居場所」であると感じることができている。「環境づくり」のポイントは、スタッフ参加者を問わず、互いに「リスペクト」しながら受け入れる姿勢にある。「子どもだから」「初めて参加するスタッフだから」という理由で、つい相手に対して指導的な気持ちになる「無意識の思い込み」や「アンコンシャス・バイアス」を捨てる事が、よりよい居場所づくりの第一歩である。

活動を継続・発展させるために

生活活動の最大の特徴は、「生まれた活動拠点」と「人材」である。この特徴を生かして、今の時代に合った「居場所づくり」を構築しながら各地域ですべての取り組みが行われている。活動を継続するには、組織のオートファンジー細胞の若

返り)が必要である。新しい風を入れて、活動を見直しながら、レベルアップしていくために、ぜひ積極的に他団体との連携を図ってほしい。すでに「つながり」を生かして成果をあげている例も見られる。先が見えない不安な時代において、生活活動に身近で寄り添う存在としての生協による居場所づくりに期待したい。

ほしのあつこ お茶の水女子大学教育学部卒業 同大学院修了 東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻 修士(学術博士) 埼玉県第4次教育振興基本計画有識者会議副議長、新座市第5次総合計画審議会会長、第6次志木市総合振興計画審議会会長他行政職多数、埼玉未来大学では2021年より「子どもの居場所づくりコース」講師、大学内では2023年より大学内で新座市教育支援センターとして「とことこがらすのへや」(不登校支援)を企画運営、その他「子育て支援フードパントリー」、多世代が集う「森のプレーパーク」などの運営を行っている。

こんな居場所も

- バルシステム埼玉 親子ふれあいサロン**
毎週金曜日 会場は★で★ら★申込不要で参加費無料できる。
- バルシステム埼玉 農家の敷地内 古民家カフェ**
不定期開催
- コープみらい Coccoルーム北本(地域子育て支援拠点)**
子育てのひろばはこちらから
- 小さいお子さん連れて、どなたでも参加できる場です。**

コープみらい埼玉西北ブロック委員会が開催に協力 吉見町社会福祉協議会主催「いまいる」で災害対策を学ぶ

2月5日、比企郡吉見町西部ふれあいセンターで「いまいる」が勉強会「地域のマップを使って災害対策を学ぶ」を開催した。「いまいる」は吉見町の社会福祉協議会が運営する居場所、今回は地震が起きた時を想定し、マップに架空の自宅や友人宅を決め、通行止め箇所を避けて指定避難場所までのルートを図面に書き込んだ。

参加者は、病院やコンビニ、ドラッグストアなどに目印のシールを貼って「意外と場所が偏っている、歩いて行くには距離がありすぎる」「地図にしてみると意外と避難場所まで遠い」などの意見があがった。

その後、非常食の簡単なアレンジとして缶詰め、大豆、ひじき、パワチのツナをビニール袋に入れ、ドレッシングを加えてよく混ぜ、ロールパンに挟んで実食。缶詰めやパワチは賞味期限が長い。

「いまいる」は気軽に立ち寄り、おしゃべりや趣味を楽しむ場所 毎月5のつく日(5日・15日・25日)午後で開催されている

2024年度会員生協データ

- 埼玉県との包括的連携協定: 埼玉県との災害時協定
- 埼玉県との災害時協定: 埼玉県生協連、コープみらい
- 埼玉県内の配車両数: トラック台数 1,661台 (1日平均 1,600台が各地で配達)
- 組合員活動の拠点となる施設 42 年間での利用人数 144,697人 (3生協の合計)
- 生活困窮者支援: 3生協がフードドライブを実施し、12,536Kg
- フードパントリー: 2生協が 23カ所 (関係団体のサポートなど直接・間接サポート含む)

地域の介護予防に貢献

生活クラブ生協埼玉・草加支部「花カフェ」(草加市)

「生活クラブ生協埼玉」に加入している草加市組合員からなる草加支部運営「くらぶルーム」花グループ。草加市にある2階建てのアパートの3LDKの部屋を借りて運営されている。「朝露をよめる」の緑の風を運い上げていく。ラジカセか、思い出している「花」に合わせ、参加者とスタッフ計10人に

利用者やスタッフ双方の居場所

「生活クラブ生協埼玉」に加入している草加市組合員からなる草加支部運営「くらぶルーム」花グループ。草加市にある2階建てのアパートの3LDKの部屋を借りて運営されている。「朝露をよめる」の緑の風を運い上げていく。ラジカセか、思い出している「花」に合わせ、参加者とスタッフ計10人に

地域でくらし地域と共に歩む

2024年9月30日(日) 小規模多機能型居宅介護の定員は29人。利用者が施設に足るまで「通い」、スタッフを利用者を訪れる「訪問」、利用者が施設を「泊まり」のサービスを提供している。グループホームの定員は18人で、スタッフのサポートを受けながら料理や食器の片付け、掃除、洗濯など家事全般をできる範囲で行う。

だれもが参加できる

「花カフェ」は、毎月1回第3土曜日に、「1ハウス」の花として、「1ハウス」が参加できる場を開催している。生活クラブ生協の組合員が主催する「ハウス」は、現在県内に約70カ所、生活クラブの拠点施設「くらぶルーム」・「くらぶメゾン」・生活館や地域の公民館などで開催されている。ふらっと参加するだけでなく、お茶会にも活用可能。ハウスについてはこちら

地域の人も施設の利用者もだれでもふらっと立ち寄れる場

医療生協さいたま生活協同組合/生協ケアホーム柿沼「ココロン森のひろば」(熊谷市)

2024年9月30日(日) 小規模多機能型居宅介護の定員は29人。利用者が施設に足るまで「通い」、スタッフを利用者を訪れる「訪問」、利用者が施設を「泊まり」のサービスを提供している。グループホームの定員は18人で、スタッフのサポートを受けながら料理や食器の片付け、掃除、洗濯など家事全般をできる範囲で行う。

だれもが参加できる

「ココロン森のひろば」は、「こやまぜ」をテーマに掲げる。誰でも利用でき、放課後の小学生が遊びに来たり、地域のサークル活動も実施されている。利用者が併設されている調理室も可能。サークル活動は、マヨネーズ、体障、子育てなど50以上の地域サークルが登録されている。無料で利用できるほか、ウェブ利用状況も確認できる。口コミで人気も広がり、評判を集めている。

だれもが参加できる

「ココロン森のひろば」は、「こやまぜ」をテーマに掲げる。誰でも利用でき、放課後の小学生が遊びに来たり、地域のサークル活動も実施されている。利用者が併設されている調理室も可能。サークル活動は、マヨネーズ、体障、子育てなど50以上の地域サークルが登録されている。無料で利用できるほか、ウェブ利用状況も確認できる。口コミで人気も広がり、評判を集めている。

だれもが参加できる

「ココロン森のひろば」は、「こやまぜ」をテーマに掲げる。誰でも利用でき、放課後の小学生が遊びに来たり、地域のサークル活動も実施されている。利用者が併設されている調理室も可能。サークル活動は、マヨネーズ、体障、子育てなど50以上の地域サークルが登録されている。無料で利用できるほか、ウェブ利用状況も確認できる。口コミで人気も広がり、評判を集めている。